

2023 年度 加茂地区生物多様性調査データベースについて

2018 年度に加茂地区生物多様性調査データベースの取りまとめが行われ、その成果報告としての「守りたい加茂の豊かな自然」が出版された。その後も追加調査は継続されており、2019 年から 2022 年までの 4 年間の追加データの概要については、美濃加茂市民ミュージアム紀要第 22 集に「2019-2022 年の加茂地区生物多様性調査報告」としてされている。

2023 年においても、継続調査は行われ、現地調査のデータとして 1039 件(シダ植物 1 件、種子植物 147 件、哺乳類 5 件、鳥類 560 件、爬虫類 5 件、両生類 22 件、魚類 45 件、貝類 2 件、甲殻類 3 件)をデータベースに追加した。また、その一方でデータの見直しによって、3 種の植物(オナモミ、ミヤマママコナ、キケマン)のデータを削除した。その結果、加茂地区生物多様性調査のデータベースの登録件数は合計 31、471 件となった。2023 年調査による新規性の高い結果について、以下に記す。

●種子植物の加茂地区追加記録種と加茂地区植物目録の見直し

2023 年分の調査とデータの見直しによって、加茂地区で記録された種子植物として、次の 16 種が追加された。

カツラ	データベース記載漏れ
ツルシロカネソウ	データベース記載漏れ
コオニユリ	データベース記載漏れ
トウワタ	データベース記載漏れ・帰化植物
ハナカザリゼリ	データベース記載漏れ・帰化植物
ランタナ	データベース記載漏れ・帰化植物
ハナニラ	データベース記載漏れ・帰化植物
イワカガミ	再同定
ウチョウラン	初記録 (2023)
トチカガミ	初記録 (2023)
ジンバイソウ	初記録 (2023)
マルミノヤマゴボウ	初記録 (2023)
ホトトギス	初記録 (2023)
イケノミズハコベ	初記録 (2023)・帰化植物
シロミミナグサ	初記録 (2023)・帰化植物
タイワンホトトギス	初記録 (2023)・帰化植物

カツラからハナニラの 7 種については、以前より加茂地区で確認されていたが、生物多様

性調査のデータとして登録されていなかったため、調査記録をデータベースに追加した。イワカガミは標本の見直しによって、加茂地区に分布していたことが確認されたものである。ウチョウランからタイワンホトトギスまでの 8 種は、2023 年の調査によって新たに加茂地区で発見された種である。

また、既存データの修正として、3 種（オナモミ、ミヤマママコナ、キケマン）を削除し、イワギボウシはデータベース内の種名をオヒガンギボウシに修正、データベース内でシソバタツナミとシソバタツナミソウとして登録されていたデータは、同一種としてシソバタツナミソウに統一した。

こうした追加と修正によって、加茂地区植物目録の種数は 2023 年 3 月時点の 1490 種から、2024 年 3 月時点の 1502 種に増加し、内容の正確性も向上した。

●小型サンショウウオ類の分布記録

両生類の小型サンショウウオ類は山地の林床に生息しており、幼生期を沢の水中で過ごすヒダサンショウウオやハコネサンショウウオの分布は比較的調査しやすいものの、伏流水中で繁殖し、成体も幼生も地表や河川に出現しないマホロバサンショウウオの分布の詳細は不明であった。これまでは 2016 年に白川町の 1 地点での記録しかなかったが、2023 年の調査によって新たに七宗町と八百津町の各 1 地点で確認することができた。

●特定外来生物アカボシゴマダラの侵入

近年日本各地で新たな外来昆虫の侵入が問題となっており、加茂地域においてもこれまで記録の無かった特定外来生物の昆虫であるアカボシゴマダラが記録された。本種の幼虫はエノキを利用し、同様に幼虫期にエノキを利用するオオムラサキなどの在来蝶類への影響が危惧されている。国立環境研究所の侵入生物データベースでは、アカボシゴマダラの侵入経路として「“放蝶ゲリラ”による人為的な放蝶によると考えられている」とされており、対策が必要である。

●昆虫目録の更新

アカボシゴマダラ以外に、文献調査および調査員の個人記録として 130 種が加茂地区の追加記録種となった。